

春うらかな日和の今日この頃、若芽の息吹を感じるべく、4/18に犬山市の里山を登りました。そこで発見した植物を紹介します。

① 著莖(シャガ)

継鹿尾山山頂へ続く寂光院の参道を通りすぐの少し湿った場所に見られます。しゃがは中国原産で、かなり古くに日本に入ってきた植物です。山行した日はちょうど開花の時期(4 - 5月ごろ)であり、白っぽい紫のアヤメに似た花をつけます。花弁に濃い紫と黄色の模様があります。根茎は短く横に這い、群落を形成します。草丈は高さ 50 - 60cm程度までになり、葉はつやのある緑色で、左右から扁平になっています。いわゆる単面葉なのですが、この種の場合は株の根本から左右どちらかに傾いて伸びて、葉の片面だけを上に向け、その面が表面のような様子になり、二次的に裏表が生じています。

② ヒツバタゴ

県道 16 号線から尾張本宮山へ向かう山道の途中で見られます。国の天然記念物に指定されているヒツバタゴ自生地(犬山市池野)です。胸を弾ませて向かったものの、見ごろはまだ先でした。満開時は枝全体に雪が降り積もったようで壮観です。ヒツバタゴは、国内では東海地方の木曾川流域と長崎県対馬の限られた地域にしか自生していません。形状がタゴ(トネリコ)に似て、タゴはふつう複葉であるが、単葉(一つ葉)であることから、この名があります。別名「ナンジャモンジャ」の名でも親しまれ、樹齢約 300 年、高さ 15~18 ㍎の大木が花を咲かせます。ゴールデンウィークから 10 日間ほどが見頃だそうで、ちょうどこの会報を手にとって読んでいる時期でしょうね。(M・Y)



著莖(シャガ)



ヒツバタゴ

(参考: 犬山観光情報)